

1 本年度の学校評価をふりかえって

教育目標「豊かに かしく たくましく 一夢・挑戦・感動…未来へ」の具現化に向けて、「豊かな心とたくましさを育む教育活動の充実」「学力向上に向けた指導の充実」「認め合い高め合いながら自己実現を図る教育の充実」「開かれた学校運営の充実」「防災や事故防止に関する指導の充実」の5つを経営の柱に掲げ、教育活動に取り組んできた。特に、「手つなぎ活動」を中心とする「異年齢集団活動の一層の充実」と主体的な学び、対話的な学び、深い学びの充実を図り「分かる、できる、楽しい、生かせる授業の構築」を本年度の重点とし、家庭や地域の協力を得ながら全職員で推進に努めてきた。今後も自然に恵まれた環境の中で、小規模校のよさを生かし、本校だからこそできる教育活動を家庭や地域と共に展開することで、ふるさと豊岩に愛着を感じ、地域に根ざしたキャリア教育の充実、およびふるさとを大切にしようとする心の醸成につなげていきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	異年齢集団活動の一層の充実	- 子どもたちが意欲的に活動して、全体的に非常によかった。 - 活動が前半に固まっていて、やや尻すぼみ感がある。大きな負担を掛けずに、簡単に継続できるものを次年度は考える必要がある。	A	手つなぎ活動は力を入れて行ってきたが、教職員や児童の負担感を減らしながら、より充実した活動を目指し、年間の計画を見直して取り組んでいく。	- 手つなぎ活動を通して上の学年や下の学年との関わりを上手にできる子どもを育てられたらと思う。 - 全校で関わることを通して、学年の発達段階に応じた力を身に付けていってほしい。
	「分かる」「できる」「楽しい」「生かせる」授業の構築	- 今年度は、少人数指導や複式学級における授業づくりについて研修を深めてきた。特に複式学級の授業の在り方について深めることができた。 「分かる」「できる」「楽しい」授業の構築により、基礎学力の定着を図った。	B	- 子どもたち自身が見通しをもって学習に臨めるように工夫していく必要がある。 - I C Tは、いつでも使える道具になるようにたくさん使わせることが大切なので、今後も活動場面を工夫していく。	- 学年ごとに何を覚えればよいのか子どもたちが分かるようにしていくとよいのではないかな。 - 授業参観等でどのように I C Tを使った授業を行っているのか発信してほしい。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	毎月、職員会議後に行う子どもの情報交換会、年3回（6・10・2月）のくらしのアンケート、年2回児童を語る会を実施し、情報と対応について全職員で共有すると共に、問題行動の予防や早期発見を目指し、日常の些細な変化や小さなトラブルについても、丁寧な対応に努めた。	A	「全員を全員で育てる」を合い言葉に、常に子どもの様子に目を向け、小さな変化でも速やかに情報共有を図り、組織的に対応できる体制を維持する。 - 保護者や地域とも連携し、子どもたちが安心できる人間関係づくりに努めていく。	- 地域とのつながりが少し少ないように思うので、機会を捉えて関わりをもてるようにしてほしい。 - アンケートだけではなく、面談などで子どもたちの声を直接聞く機会を今後も大切にしてほしい。
	「声を出そう」活動の推進	「あいさつは明るく元気に自分から」を合い言葉に、進んであいさつをし合うことができていて、明るい学校の雰囲気につながっている。 - 家庭や地域でのあいさつについては十分でないとの声があるので、校内での取組を広げていくことが今後の課題である。	B	目が合い、心が通うあいさつを目指し、児童委員会でも話合を行うなど校内でのあいさつへの意識は高いので、家庭や地域での行動に結びつくよう道徳教育の充実を図ったり、よりよい人間関係を築く力を育む体験的な活動等の機会を増やしたりしていく。	学校でのよいあいさつを地域にも広げたい。自らあいさつができるように地域のあいさつ運動を活発に行っていけばいいのではないだろうか。そのために地域との連携をもっと図る必要がある。

家庭・地域との連携	地域に開かれた学校づくりと家庭連携による指導	・地域への学校報の全戸配付や学校ホームページのタイムリーな更新により、家庭や地域への情報発信に努めた。 ・田植え、稲刈りなどの体験活動を地域の協力で行うことができた。 ・学校運営協議会を通して、地域による学校花壇の整備が行われた。 ・運動会、スクールコンサート、学習発表会を学区の全戸に案内し、多くの方に学校の様子を参観してもらった。	B	・学校報や学級通信、学校ホームページを活用し、引き続き、学校からの情報の発信を積極的に行っていく。地域や保護者の思いを受信しやすい環境をさらに整え、目指す子どもの姿を共有し合いながら共に育てていくよう努める。 ・学校運営協議会等を積極的に活用し、地域の人や資源を生かした学習の一層の充実を図っていく。	・今後も授業や活動の様子を発信して行ってほしい。 ・読書活動について学校、子ども、保護者間で意識の違いが見られた。進んで読書する子どもを育てるために、学校と家庭でさらに連携しながら進めてほしい。
防災や事故防止	防災や事故防止に関する理解と対応力の育成	・年3回（5・9・1月）の避難訓練と放送による聞き方訓練で防災指導を継続することができた。 ・1、2年生は歩行の仕方、3～6年生は自転車の乗り方について交通安全指導を警察と連携して行い、子どもたちの交通安全に対する意識の向上につながった。	A	・繰り返し行う中で自分の身は自分で守る姿勢につなげていく。 ・家庭や地域と連携した避難訓練、防災教育の在り方も検討する。	・報道等を通して、災害はいつ起こるか分からないことを実感している。今後も様々なことを想定して進めてほしい。